

教科	国語	科目（単位数）	論理国語（2）	学年	2	類型	全クラス
学習目標			(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力をつける。・・・ (知識及び技能) (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で、また、文章から読み取れる筆者のものの見方、感じ方、考え方に対する中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・・ (思考力、判断力、表現力) (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・・ (学びに向かう力、人間性等)				
評価基準	知識・技能		①定期考査の知識・技能：7～8割 ②小テスト・課題・提出物等：2割～3割				
	思考・判断・表現		①定期考査の思考・判断・表現：7～8割 ②小テスト・課題・提出物等：2割～3割				
	主体的に学習に向かう態度		①定期考査：4割 ②小テスト・課題・提出物等：7割				
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
年度初～ 1学期 期末考査	ミロのヴィーナス (清岡卓行)		(知) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。「逆説」「アイロニー」という語が意味する内容を、文脈に沿って読み取り、筆者の意図を具体的に説明できる。 (思) 筆者の「芸術」のとらえ方を、文章中の表現をもとに的確に読み取ったうえで、そのとらえ方に対する自分の考えを自分の経験も交えながら述べることができる。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。				
	相手依存の自己規定 (鈴木孝夫)		(知) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 (学) 進んで本文を検討し、考えを整理して学習課題に取り組む。				
1学期 期末後	文章を読み深める/「山月記」 (中島敦)		(知) 作品のストーリーを文脈の中で正確に把握することができる。 (思) 作品の展開を踏まえ、人間が虎になるという設定がもたらす効果について、おおむね理解することができる。 (学) 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考える。				
～2学期 中間考査	分人とは何か (平野啓一郎) /メディアの変容 (土井隆義)		(知) 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解している。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 (学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。				
～2学期 期末考査	「リスク」と「リスク」社会 (神里達博)		(知) 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方、情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深める。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握することができる。人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。 (学) 極めて積極的にベックとルーマンの各記述から中心的主張を捉えて要約し、学習課題に沿って現代における「リスク」について具体的に考え、話し合おうとしている。				
2学期 期末後	ナイン/井上ひさし		(知) 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (思) 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 (学) 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。				
～3学期 学年末考査	消費するスポーツ (多木浩二)		(知) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。推論の仕方について理解を深め使うことができる。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (学) 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。				
学年末考査 後	こころ/ (夏目漱石)		(知) 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 (思) 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容を解釈することができる。 (学) 文章の内容を踏まえて、個人と社会の関係について粘り強く検討し、学習課題に沿って適切に説明しようとする。				
使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「精選論理国語」(東京書籍) 副教材：「文学国語セレクション」(東京書籍)、「新訂総合国語便覧」(第一学習社)、「改訂版プレミアムカラー国語便覧」(数研出版)、「大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000」(尚文出版)、「グランステップ現代文(論理・文学・実用)2.5」(尚文出版)、「現代文キーワード解説〔改訂版〕」(Z会)						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、本文を読み、わからない言葉を辞書で引いてくる。授業で内容を深く読解し書き手の意図を考える)						
評価方法	(知) 考査・課題・提出物等 (思) 考査・課題・提出物等 (学) 考査・課題・提出物、授業への取り組み状況等						

教科	国語	科目（単位数）	古典探究(3)	学年	2	類型	全クラス
学習目標			(1) 文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら内容や書き手の意図を解釈する力を持つとともに、伝統的な言語文化に対する理解を深める。・・ (知識及び技能) (2) 論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で、また、古典作品から読み取れる先人のものの見方、感じ方、考え方を触れる中で、自分の思いや考えを広げ、伝え合う力を高める。・・ (思考力、判断力、表現力) (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。・・ (学びに向かう力、人間性)				
評価基準	知識・技能		①定期考査の知識・技能：7～8割 ②小テスト・課題・提出物等：2割～3割				
	思考・判断・表現		①定期考査の思考・判断・表現：7～8割 ②小テスト・課題・提出物：2割～3割				
	主体的に学習に向かう態度		①定期考査：4割 ②小テスト・課題・提出物：7割				
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
年度初め～ 1学期 期末考査	説話「大江山」 /『十訓抄』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考え方や目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 (学) 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。				
	故事「賣履忘度」 /『韓非子』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 『韓非子』が法家の書物であることを踏まえて、本文で批判されている鄭人の態度について積極的に考察している。				
	歌物語「初冠」 /『伊勢物語』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 (学) 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。				
	史伝「鴻門の会」 /『史記』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。				
1学期期末 後～2学期 中間考査	隨筆「すさまじきもの」 /『枕草子』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。				
	日記文学「東路の道の果て」 /『更級日記』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。				
	思想「性善」/『孟子』 「性惡」/『荀子』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 (学) 孟子と荀子の思想に見られる類似点と相違点を粘り強く考察し、主体的に文章に表そうとしている。				
	物語「光源氏誕生」 /『源氏物語』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 (学) 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。				
～2学期期 末考査	文章「漁父辞」/『楚辭』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 屈原と漁父との問答に見られるそれぞれの考え方の違いについて、粘り強く考察し、主体的に説明しようとしている。				
	隨筆「ゆく河の流れ」 /『方丈記』		(知) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。				
	隨筆「花は盛りに」 /『徒然草』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。				
	漢詩　中国の詩		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 (学) 漢詩の詩型・押韻・対句について進んで考察し、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。				
～3学期学 年末考査	歴史物語「南殿の競射」 /『大鏡』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考え方や目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 (学) 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。				
	軍記物語「壇ノ浦」 /『平家物語』		(知) 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 (学) 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読に取り組もうとしている。				
	和歌		(知) 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 (思) 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 (学) 学習課題に沿って、粘り強く各句のおもしろみや味わいを考察し、自分の考えを深めようとしている。				
	使用教材 (教科書・ 副教材)		教科書：「古典探究」古文編/漢文編（教研出版）、副教材：「読解を大切にする体系古典文法九訂版」（教研出版）、「精説漢文改訂版」（いいいざな書店）、「改訂版ブレミアムカラー国語便覧」（教研出版）、「Key&Point古文単語330四訂版」（いいいざな書店）、「新訂版正しく読み・解くための力をつける古典ステップ2」（教研出版）、「精説漢文完成ノート」（教研出版）				
学年末考査 後	学習方法		予習・授業・復習のサイクルの徹底。 (予習で、古文単語を辞書で引き、現代語訳をしてくる。授業で古典文法、漢文句法、現代語訳の仕方等を理解し、覚える。)				
評価方法			(知) 考査・小テスト・課題・提出物等 (思) 考査・小テスト・課題・提出物等 (学) 考査・小テスト・課題・提出物・授業への取り組み状況等				

教科	地理歴史	科目(単位数)	地理総合(2)	学年	2	類型	全クラス
学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働きかせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べて、身に付けるようとする。							
(2) 地図に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。							
(3) 地図に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそそぐで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自觉、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自觉などを深める。							
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：7割 ②復習テスト(Forms)、ワークシート等：3割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：7割 ②復習テスト(Forms)、ワークシート等：3割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：7割 ②提出物(復習テスト、ワークシート、課題提出状況、授業の状況)：3割					
期間	単元(学習内容)	学習の到達目標					
1学期	第1編第1章 私たちが暮らす世界	(知)・世界地図や地球儀での表現方法ならびに日本の位置や領域についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 (思)・地球上の位置に関する事柄について、緯度・経度や世界地図・地球儀や領域の特徴をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (学)・地球上の位置に関する事柄に対する关心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。					
	第1編第2章 地図や地理情報システムの役割	(知)・地図についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 (思)・さまざまな地図について、縮尺・媒体・用途などに着目し、適切に整理している。 ・さまざまな統計数値を、適切な主題図で表現している。 ・GISを操作し、計測結果や主題図を表示している。 (学)・紙の地図やGISに対する关心を高め、閲覧や作業を通して、それらの特徴をとらえようとしている。					
2学期	第1編第3章 資料から読み取る現代世界	(知)・交通・通信技術の発展と国境をこえたさまざまな結び付きについて、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・交通・通信手段や貿易構造の変化、世界の国家群の特徴などについて、地図や図表の読み取りを通じて理解を深めている。 ・交通・通信の利用・整備の状況や国境をこえた人・モノ・情報の移動、世界の国家群などについて、地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 (思)・交通・情報通信が国境をこえて結び付き、その結び付きがますます強固になっていることについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・貿易や観光などにみられる国境をこえたモノや人の動きについて、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・グローバル化の加速によって形成された地域経済圏や国家群について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (学)・交通・通信の発達による社会の変化と、それとともに起こるようになった諸問題に対する关心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ・グローバル化の進む現代世界において、政治的・経済的な国家間の結び付きが強まっていることに対する关心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。					
	第2編第1章 人々の生活文化と多様な地理的環境	(知)・世界にみられる多様な文化について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・さまざまな産業とそれらの分布について基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 (思)・文化の違いがなぜ生じるかということについて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・世界各地で多様な地形や気候・植生がみられることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・さまざまな産業の特徴や産業立地、それらの変化について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・地域の文化や人々の暮らし、産業の違いを、それぞれの地域の自然環境との関連に着目しながら多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (学)・文化の多様性と異なる文化の理解や共存に関して关心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ・さまざまな自然環境に対応した人々の生活や産業の工夫について关心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ・技術の発展やグローバル化が与えた産業の発展・変容への影響に关心を持ち、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。					
3学期	第2編第2章 さまざまな地球的課題と国際協力	(知)・さまざまな要因がからむ地球的な課題についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 (思)・地球的な課題について、地域性や歴史的背景、日常生活との関連や国際社会の変化をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (学)・各国の社会状況にあった具体的な解決が求められる地球的な課題に対する关心を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。					
	第3編第1章 自然環境と防災	(知)・変化に富んだ日本列島の自然環境、大きな被害をもたらす自然災害について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・多発している日本列島の自然災害とその克服について、基本的な事柄と追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 (思)・日本列島の地形や気候と自然災害について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・日本列島のさまざまな自然災害と防災対策について、地域性や日常生活との関連をふまえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (学)・日本列島の豊かな自然環境と近年増大している自然災害に対する关心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ・深刻な日本列島の自然災害と防災に対する关心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。					
	第3編第2章 生活圏の調査と地域の展望	(知)・地域調査の手順や注意すべきことを理解している。 ・地図や統計・画像などの諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。 (思)・身近な地域の特徴を、設定したテーマに沿ってとらえ、明らかになったことを適切に表現している。 (学)・身近な地域の特徴を明らかにするために、意欲的に地域調査に取り組もうとしている。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：『地理総合』(東京書籍)、『詳解現代地図最新版』(二宮書店) 副教材：『新課程版サクシード地理2025』(啓隆社)、『新詳地理資料COMPLETE2025』(帝国書院)						
学習方法	授業・復習を中心に行う。自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からぬところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に復習テストやレポートを課し、評価する。						
評価方法	(知)①定期考査の知識・技能：7割 ②復習テスト(Forms)、ワークシート等：3割 (思)①定期考査の思考・判断・表現：7割 ②復習テスト(Forms)、ワークシート等：3割 (学)①定期考査：7割 ②提出物(復習テスト、ワークシート、課題提出状況、授業の状況)：3割						

令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	数学	科目（単位数）	数学II(2)、数学A(1)、数学B(1)、数学C(1)	学年	2	類型	文系コース
学習目標			数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。 (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 (2) 命題の条件や結論に着目し、数式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力 (3) 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 (4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 (5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 (6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度				
評価基準	知識・技能	考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割					
	思考・判断・表現	考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割					
	主体的に学習に向かう態度	考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況約2割					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
4・5月 1学期 中間考査	数II 第5章 指數関数と対数関数		(知) 因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 (思) 式の計算の方法を既に学習した数式や式の計算と関連付け多面的に考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。				
5・6月 1学期 期末考査	数A 第3章 数学と人間の活動 (整数分野を中心)に)		(知) 数量や図形に関する概念などと、数学的に解釈することの関わりについて理解する。 (思) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
7・8・9月 2学期 中間考査	数II 第3章 図形と方程式		(知) 座標を用いて、平面上の線分を内分する・外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。 (思) 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。				
7・8・9月 2学期 中間考査	数C 第1章 平面上のベクトル		(知) 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。 (思) 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
7・8・9月 2学期 中間考査	数C 第2章 空間のベクトル		(知) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。 (思) ベクトルやその内積に基本的な性質などを用いて、平面付隣空間図形の性質を見出したり、多面的に考察したりする。 (学) 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。				
10・11月 2学期 期末考査	数B 第1章 数列		(知) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 (思) 自然数の性質などを見いだし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。				
10・11月 2学期 期末考査	数II 第1章 微分法と積分法		(知) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。 (思) 関数とその導関数との関係について考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。				
12・1月 3学期 学年末考査	数B 第4章 統計的な推測		(知) 標本調査の考え方について理解を深める。 (思) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。				
12・1月 3学期 学年末考査	数学ⅠA・ⅡBC 総復習		(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
2・3月	数学ⅠA・ⅡBC 総復習		(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
2・3月	数学ⅠA・ⅡBC 総復習		(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
4・5月 3年1学期 中間考査	数学ⅠA・ⅡBC 総復習		(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
5・6月 3年1学期 期末考査	数学ⅠA・ⅡBC 総復習		(知) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 (思) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する。 (学) 数学のよさを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする。				
使用教材 (教科書・副教材)	① 教科書 : 「高等学校数学A、Ⅱ、B、C、Ⅲ」 (数研出版) ② 教科書理解補助参考書 : 「数学Ⅰ・A、Ⅱ・B入門問題精講」 (旺文社) ③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学Ⅰ+A、Ⅱ+B」 (数研出版) ④ 網羅系参考書・問題集 : 「チャート式基礎からの数学Ⅰ+A、Ⅱ+B」 (数研出版) ※デジタル版も含む 「基礎問題精講数学Ⅱ・B+ベクトル」 (旺文社) ⑤ 復習用問題集 : 「文系の数学重要事項完全習得編」						
学習方法	(1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて式や記号に慣れる。最初は、書いて手で慣れることも大切。 ①②を活用 (2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。 ①②を活用 (3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。※問題を解くために、定理や公式を覚えるわけではない。③を活用 (4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。 ①④を活用 (5) 定理や公式など複数のこと使い、試行錯誤をしないと解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。④⑤を活用 ④にはすべての例題に解説動画がありますので、活用してください。①にもすべての例題、応用例題の解説動画があります。 (6) 教師・友人への質問や対話を通じて理解が深まっています。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。						
評価方法	(知) 考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価 (思) 考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価 (学) 考査約8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価						

教科	数学	科目（単位数）	数学II(2)、数学III(1)、数学A(1)、数学B(1)、数学C(1)	学年	2	類型	理系コース
学習目標							数学的な見方・考え方を働きかせ、数学的活動を通して、次のような数学的に考える資質・能力を身に付ける。 (1) 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力 (3) 圖形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力 (4) 社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力 (5) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度 (6) 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度
評価基準	知識・技能	考査	7割～8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況	2割～3割			
	思考・判断・表現	考査	7割～8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況	2割～3割			
	主体的に学習に向かう態度	考査	7割～8割・小テスト・課題・授業等への取り組み状況	2割～3割			
期間	単元（学習内容）						学習の到達目標
4・5月 1学期 中間考査	数II 第5章 指数関数と対数関数						(知) 指数関数の値の変化やグラフの特徴や対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算ができる。 (思) 指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
5・6月 1学期 期末考査	数A 第3章 数学と人間の活動 (整数分野を中心に)						(知) 数量や図形に関する概念などと、数学的に解釈することの関わりについて理解する。 (思) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
7・8・9月 2学期 中間考査	数II 第3章 図形と方程式						(知) 座標を用いて、平面上の線分を内分する・、外分する点の位置や二点間の距離を求めることができる。 (思) 座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察する。 (学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。
10・11月 2学期 期末考査	数学C 第4章 式と曲線						(知) 放物線、楕円、双曲線が二次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質について理解すること。 (思) 放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察すること。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
	数B 第4章 統計的な推測						(知) 標本調査の考え方について理解を深める。 (思) 確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察する。 (学) 数学の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。
	数C 第1章 平面上のベクトル						(知) 平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解する。 (思) 実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則を考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
12・1月 3学期 学年末考査	数C 第2章 空間のベクトル						(知) ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解する。 (思) ベクトルやその内積に基本的な性質などを用いて、平面図形や空間図形の性質を見出したり、多面的に考察したりする。 (学) 粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとする。
	数C 第3章 複素数平面						(知) 複素数平面と複素数の極形式、複素数の実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味、ド・モアブルの定理を理解する。 (思) 複素数平面における図形の移動などを関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
2・3月	数B 第1章 数列						(知) 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 (思) 自然数の性質などを見いだし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。
	数II 第1章 微分法と積分法						(知) 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解する。 (思) 関数とその導関数との関係について考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
	数学III 第1章 関数						(知) 簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴について理解する。 (思) 既に学習した関数の性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
4・5月 3年1学期 中間考査	数学III 第2章 極限						(知) 数列の極限について理解し、数列 $\{r_n\}$ の極限などを基に簡単な数列の極限を求めることができる。 (思) 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。
	数学III 第3章 微分法						(知) 微分の可能性、関数の積及び商の導関数について理解し、関数の和、差、積及び商の導関数を求めることができる。 (思) 関数の連続性と微分可能性、関数とその導関数や二乗導関数の関係について考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
4・5月 3年1学期 中間考査	数学III 第4章 微分法の応用						(知) 導関数を用いて曲線の接線の方程式、関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べ、グラフの概形を描くことができる。 (思) 関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、数学的な特徴や他の事象との関係を考察する。 (学) 数学の考え方を用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとする。
4・5月 3年1学期 中間考査	数学III 第5章 積分法とその応用						(知) 置換積分法及び部分積分法について理解し、簡単な場合について、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。 (思) 関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察する。 (学) 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする。
使用教材 (教科書・副教材)	① 教科書 : 「高等学校数学A、II、B、C、III」（数研出版） ② 教科書理解補助参考書 : 「数学I・A、II・B入門問題精講」（旺文社） ③ 反復練習用問題集 : 「4プロセス 数学I+A、II+B、III+C」（数研出版） ④ 綱羅系参考書・問題集 : 「チャート式基礎からの数学I+A、II+B」（数研出版）※デジタル版も含む ⑤ 復習用問題集 : 「文系の数学重要事項完全習得編」						
学習方法							(1) 教科書を読み、定義を理解するために具体例に触れる。そのときに、書いて式や記号に慣れる。最初は、書いて手で慣れることも大切。 ①②を活用 (2) 定理や公式の証明を理解し、何も見ずに証明を再現できるようになる。最初は、写してもよい。 ※(2)は後回しにしてもよい。 ①②を活用 (3) 定理や公式の使い方を身に付けるために、問題を解く。速く正確に解けるように反復練習をする。※問題を解くために、定理や公式を覚えるわけではない。③を活用 (4) 定理や公式を活用することで解決できる応用問題を解く。解法を理解したうえで、解法のポイントとなる箇所を覚えていく。 ①④を活用 (5) 定理や公式など複数のことを使い、試行錯誤をしないで解けないような発展問題に取り組み、総合的な数学の力や、思考力を培う。 ④⑤を活用 ④にはすべての例題に解説動画がありますので、活用してください。①にもすべての例題、例題、応用例題の解説動画があります。 (6) 教師・友人への質問や対話を通じて理解が深まってきた。1人で考えることも大切ですが、積極的にコミュニケーションをとりましょう。
評価方法							(知) 考査約8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価 (思) 考査約8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価 (学) 考査約8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況が約2割を目安に総合的に評価

令和6年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目 (単位数)	物理基礎 (2)・物理 (2)	学年	2	類型	理系
学習目標	物理や物理現象に関わり、理科の見方・考え方を働きかせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。 (1) 物理の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度						
評価基準	知識・技能	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元 (学習内容)		学習の到達目標				
～1学期 期末考査	総合物理① 第1編 力と運動 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則		(知) 等加速度直線運動について、物体にはたらく力を理解し、式やグラフを適切に運用できる。 物体が力を受けるとき、運動状態はどのようになるかを指摘できる。 さまざまな運動をしている物体について運動方程式を立てて考えることができる。 力のモーメントについて理解している。 (思) 相対速度について説明できる。 等加速度直線運動する物体の様子について説明できる。 水平投射や斜方投射の運動の様子を鉛直方向と水平方向に分けて説明できる。 グラフから適切な値を読み取ることができる。 作用反作用の2力とつりあいの2力の違いを理解し、説明できる。 運動方程式を理解し、問題解決にあたって式の運用が正しくできる。 (学) 日常の運動から速さ、時間、距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 落体の運動、特に水平投射や斜方投射について運動の状態がどのようにになっているか理解しようとしている。 見ること、触ることができない力に対して、どのようにして力の存在がわかるのか、また、力にはどのような種類があるのかについて考えようとしている。 物体の運動状態は受ける力とどのような関係にあるかについて興味・関心をもち、理解しようとしている。				
～2学期 中間考査	総合物理① 第1編 力と運動 第3章 仕事と力学的エネルギー 第4章 運動量の保存		(知) 運動エネルギー、位置エネルギーについて定義を正しく理解し、計算できる。 直線運動、平面運動における運動量保存則を式で表現できる。 (思) エネルギーの定義について説明できる。 運動エネルギー変化は物体がされた仕事に等しいことを用いて物体の運動を説明できる。 力学的エネルギー保存則、運動量保存則について成立する条件を説明できる。 (学) エネルギーは仕事をする能力を秘めていることに興味をもち、理解しようとしている。 力学的エネルギー保存則について興味関心をもち、身のまわりの現象と結びつけて考えようとしている。				
～2学期 期末考査	総合物理① 第1編 力と運動 第5章 円運動と万有引力 第2編 热と気体 第1章 热と物質		(知) 等速直線運動や単振動においてはたらく力や速度、加速度について理解している。 慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。 ケプラーの法則や万有引力の式を理解している。 熱量の保存について理解し、式を立てることができる。 (思) 等速円運動や単振動に必要な力について説明できる。 慣性力と他の力の違いについて理解し、説明できる。 温度や熱容量、比熱について言葉で説明できる。 (学) 単振動の周期と質量や糸の長さの関係を調べるための実験に意欲をもって参加しようとしている。 慣性力の向きや大きさについて興味をもち、慣性力を考える物体の運動について理解しようとしている。 比熱を調べる実験に意欲をもって参加しようとしている。				
～3学期 学年末考査	総合物理① 第2編 热と気体 第2章 気体のエネルギーと状態変化 総合物理② 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音 第3章 光		(知) 理想気体の状態方程式を用いることができる。 気体が面に力を及ぼすことから圧力の式を導くことができる。 波の発生原理や基本事項を理解している。 ドップラー効果の式を用いて観測者が聞く音の振動数を求めることができる。 (思) 平均運動エネルギーと絶対温度の関係について説明できる。 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。 波の基本事項について説明できる。 (学) 気体の圧力、体積、温度を変化させると、どのような関係が成り立っているか考察しようとしている。 気体分子がもつミクロな量とマクロな量について興味関心をもっている。 正弦波を式で表す方法について理解しようとしている。 光や音などの身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。				
～年度末							
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「総合物理①」「総合物理②」（数研出版） 問題集：「セミナー物理基礎+物理2024」（第一学習社） 「進研WINSTEP」（Learns）						
学習方法	授業中における課題と復習に重点的に取り組むこと。予習を課していない分、授業への取り組み方で大きく成績が変動してしまうので、積極的に授業に参加すること。定期的に小テストや課題を課し、評価する。						
評価方法	(知) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

教科	理科	科目（単位数）	化学（3）	学年	2	類型	理系 5・6・7組
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、科学的に探究する力と態度を身に付ける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割	②小テスト：2割	③各課題：2割			
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割	②小テスト・ワークシート：2割	③各課題：2割			
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割	②小テスト・ワークシート：3割	③各課題：3割			
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
1学 期 中 間 考 査	2編 2章 電池と電気分解	【知】化学反応とエネルギーについての実験などを通して、電池、電気分解の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。					
		【思】電池、電気分解について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】電池、電気分解について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
	1章 1章 物質の状態	【知】物質の状態とその変化についての実験などを通して、状態変化の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】状態変化について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】状態変化について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
1学 期 期 末 考 査	1編 2章 気体の性質	【知】物質の状態とその変化についての実験などを通して、気体の性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】気体の性質について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】気体の性質について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
	1編 3章 溶液の性質	【知】溶液と平衡についての実験などを通して、溶解平衡および溶液とその性質の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】溶解平衡および溶液とその性質について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど科学的に探究している。					
		【態】溶解平衡および溶液とその性質について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
2学 期 中 間 考 査	1編 4章 固体の構造	【知】物質の状態とその変化についての実験などを通して、固体の構造の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】固体の構造について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】固体の構造について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
	2編 1章 化学反応と熱・光	【知】物質の状態とその変化についての実験などを通して、化学反応と熱・光の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】化学反応と熱・光について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】化学反応と熱・光について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
2学 期 期 末 考 査	3編 1章 化学反応の速さ	【知】化学反応と化学平衡についての実験などを通して、反応速度の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】反応速度について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】反応速度について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
	3編 2章 化学平衡	【知】化学反応と化学平衡についての実験などを通して、化学平衡とその移動の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】化学平衡とその移動について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】化学平衡とその移動について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
学 年 末 考 査	3編 3章 水溶液中の化学平衡	【知】化学反応と化学平衡についての実験などを通して、電離平衡の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】電離平衡について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】電離平衡について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
	4編 無機物質	【知】無機物質についての実験などを通して、非金属元素・典型金属元素・遷移元素の基本的な概念や原理・原則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。					
		【思】非金属元素・典型金属元素・遷移元素について、問題を見いだし見通しをもって実験などをを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。					
		【態】非金属元素・典型金属元素・遷移元素について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」（東京書籍）、副教材：「ニューグローバル化学基礎+化学（東京書籍）」						
学習方法	授業・復習のサイクル（教科書や問題集の基本問題を自分で解けるようになるまで取り組む）						
評価方法	（知）定期考査・確認テスト・章末テスト（思）定期考査・実験プリント（レポート）・課題プリントなど（態）確認テスト・課題や授業への取組み状況等						

令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目（単位数）	生物基礎（2）	学年	2	類型	文系
学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働きかせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解し、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力 (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度 (4) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度						
評価基準	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に向かう態度	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
～1学期 中間考査	第1章 生物の特徴		(知) 生物は多様でありながら共通性をもっており、生物が代謝によってエネルギーを取り出して活動していることを理解する。 (思) 多様な生物の共通性を根拠に、生物と無生物の違いについて考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
～1学期 期末考査	第2章 遺伝子とそのはたらき		(知) DNAが遺伝情報を担う物質であり、その複製・分配によって遺伝情報が伝えられ、その情報をもとにタンパク質が合成されることを理解する。 (思) DNAの遺伝情報の違いと個体の形質の違いの関係性について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
～2学期 中間考査	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節 2. 体内環境の維持のしくみ		(知) 生物には体内環境を維持する仕組みがあり、自律神経とホルモンが関わっていることを理解する。 (思) 体内環境を維持するための血液の役割や、自律神経系と内分泌系の協働について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
～2学期 期末考査	第3章 ヒトの体内環境の維持 3. 免疫のはたらき		(知) 免疫とそれに関わる細胞のはたらきについて理解する。 (思) 免疫のしくみを利用したインフルエンザの予防接種や血清療法について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
～3学期 学年末考査	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム		(知) 陸上には様々な植生がありそれらは移り変わっていくことを理解する。 気候を反映して様々なバイオームが成立することを理解する。 (思) 植生遷移の方向性について考察することができる。 気候の変化がバイオームに及ぼす影響について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
～年度末	第4章 生物の多様性と生態系 3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全		(知) 生態系における物質の循環とともにエネルギーが移動することを理解する。 生態系のバランスについて理解する。 (思) 科学的な知識を基に、環境問題と生態系の保全の重要性について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。				
使用教材 (教科書・副教材)	教科書：「生物基礎」（数研出版） 資料集：「新課程フォトサイエンス生物図録」（数研出版） 問題集：「リードLightノート生物基礎」（数研出版）						
学習方法	授業・復習を中心に行う。授業は解説と問題演習を5：5で行う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に小テストやレポートを課し、評価する。						
評価方法	(知) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

教科	理科	科目(単位数)	生物基礎(2)・生物(2)	学年	2	類型	理系
学習目標	生物や生物現象に關わり、理科の見方・考え方を働きかせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な、次のような資質・能力を育成する。						
	(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能						
	(2) 観察、実験などをを行い、科学的に探究する力						
	(3) 生物や生物現象に主観的に關わり、科学的に探究しようとする態度						
	(4) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度						
評価基準	知識・技能	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	思考・判断・表現	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
	主体的に学習に向かう態度	考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割					
期間	単元(学習内容)		学習の到達目標				
～1学期 中間考査	生物基礎 第1章 生物の特徴	(知) 生物は多様でありながら共通性をもっており、生物が代謝によってエネルギーを取り出して活動していることを理解する。 (思) 多様な生物の共通性を根拠に、生物と無生物の違いについて考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～1学期 期末考査	生物基礎 第2章 遺伝子とそのはたらき	(知) DNAが遺伝情報を担う物質であり、その複製・分配によって遺伝情報が伝えられ、その情報をもとにタンパク質が合成されることを理解する。 (思) DNAの遺伝情報の違いと個体の形質の違いの関係性について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～2学期 中間考査	生物基礎 第3章 ヒトの体内環境の維持	(知) 生物には体内環境を維持する仕組みがあること及び免疫の仕組みについて理解する。 (思) 体内環境を維持するための血液の役割や、自律神経系と内分泌系の協働について考察することができる。 免疫のしくみを利用したインフルエンザの予防接種や血清療法について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～2学期 期末考査	生物基礎 第4章 生物の多様性と生態系	(知) 陸上には様々な植生がありそれらは移り変わっていくこと、気候を反映して様々なバイオームが成立することを理解する。 生態系における物質の循環とともにエネルギーが移動すること、生態系のバランスについて理解する。 (思) 植生遷移の方向性と、気候の変化がバイオームに及ぼす影響について考察することができる。 科学的な知識を基に、環境問題と生態系の保全の重要性について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～3学期 学年末考査	生物 第1章 生物の進化	(知) 生命の起源や生物が進化してきた道筋について、進化の仕組みと合わせて理解する。 (思) 生命の誕生とその後の生物進化を環境条件の変化と関連付けて考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
～年度末	生物 第2章 細胞と分子	(知) 細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴について理解する。 生命現象におけるタンパク質の重要性について理解する。 (思) 細胞の内部構造とその機能について説明することができる。 タンパク質の立体構造と、タンパク質が生命活動で果たす役割について考察することができる。 (学) 日常生活や社会と関連させて、科学的な見方や考え方で課題を解決しようとする。					
使用教材 (教科書・副教材)	教科書: 「生物基礎」「生物」(数研出版) 資料集: 「新課程フォトサイエンス生物図録」(数研出版) 問題集: 「リードLightノート生物基礎」「リードLightノート生物」(数研出版) 「センサー総合生物学」(啓林館)						
学習方法	授業・復習を中心に行う。授業の中で問題演習を扱う。問題演習を通して自らの課題を把握し、課題解決に向けて学習する態度を持ち授業に臨むこと。分からないところをそのままにせず、積極的に質問すること。定期的に小テストやレポートを課し、評価する。						
評価方法	(知) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (思) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割 (学) 考査7割～8割、小テスト・課題・授業等への取り組み状況2割～3割						

令和7年度 熊本県立人吉高等学校 全日制 シラバス

評価基準	知識・技能	①定期考查（知識）②実技テスト（技能）
	思考・判断・表現	①学習シート ②授業観察
	主体的に学習に向かう態度	①授業観察 ②学習シート

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
1 学 期	体つくり運動 (ラジオ体操、青年体操)	【知】体力の構成要素は、健康に生活するための体力と運動を行うための体力に密接に関係していることを理解する。 【思】仲間との話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けること。 【態】体つくりの運動の学習に自主的に取り組もうとすること。
		【知】いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解する。 【技】リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。 【思】作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け仲間に伝えること。 【態】ダンスの学習に自主的に取り組もうとすること。
		【知】水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることを理解する。 【技】手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】水泳の学習に自主的に取り組もうすること。
	球技	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。
		【知】運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害について理解する。
		【知】いろいろな動きと関連させた柔軟運動やリズミカルな全身運動をすることで、結果として体力を高めることができることを理解する。 【技】リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせて、動きに変化を付けて踊ることができる。 【思】作品創作や発表会に向けた仲間と話し合う場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えること。 【態】ダンスの学習に自主的に取り組もうとすること。
2 学 期	球技	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。
		【知】技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ったり、タイムを短縮したり、競争したりできる。 【思】動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【態】陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。
		【知】スポーツの技術と技能及びその変化、運動やスポーツの技能の上達過程について理解する。
	陸上競技 (長距離走)	【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】自分で設定したペースの変化や仲間のペースに応じて、ストライドやピッチを切り替えて走ったり、タイムを短縮したり、競争したりできる。 【思】動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【態】陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。
		【知】技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。
3 学 期	体育理論	【知】運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方を理解する。
		【知】技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 【技】ゴール型・・・状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開できる。 【技】ネット型・・・状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防をすることができる。 【技】ベースボール型・・・状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思】合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を話したり、書き出したりすること。 【態】球技の学習に自主的に取り組もうとすること。
		【知】運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方を理解する。
		【知】運動やスポーツの技能と体力及びスポーツによる障害について理解する。
使用教材 (教科書、副教材)	教科書：現代保健体育（大修館） 副教材：現代保健体育ノート（大修館）、アクティブスポーツ総合版（大修館）	
学習方法	運動やスポーツを楽しみながら、単元の目標に対する個人の課題やチームの課題を明確にし、その解決方法について話し合ったり練習計画を作成するなどして、仲間との実践の中で協力し活動していく。	
評価方法	○知識・技能・・・定期考查及び実技テストにより評価を行う。 ○思考・判断・表現・・・論述やレポートの作成、発表等。 ○主体的に学習に取り組む態度・・・行動観察やレポート等。	

教科	体育	科目（単位数）	保健（1）	学年	2	類型	全クラス
学習目標	保健の見方・考え方を働きかせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力の育成を目指す。						
評価内容	知識・技能	①定期考查の知識：7割 ②保健ノート等の提出物：3割					
	思考・判断・表現	①保健ノート 思考・判断・表現：5割 ②課題研究レポート、発表 思考・判断・表現：5割					
	主体的に学習に向かう態度	①観察：5割 ②保健ノート等の提出物：5割					

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
1 学 期	思春期と健康	【知】思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。 【思】生涯を通じ健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。
	結婚生活と健康	【知】結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようになるとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようになる。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようになる。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようになる。 【思】生涯を通じ健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。
	加齢と健康	【知】中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することを理解できるようになる。また、高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解できるようになる。 【思】生涯を通じ健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。
	労働災害と健康	【知】労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようになる。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようになる。 【思】生涯を通じ健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。
	働く人の健康の保持増進	【知】働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようになる。働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解できるようになる。 【思】生涯を通じ健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようになる。
	環境と健康	【知】人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚染、土壤汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようになる。 【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。
2 学 期 ・ 3 学 期	食品と健康	【知】人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であることや、食品衛生に関わる活動の重要性を理解できるようになる。 【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。
	保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	【知】我が国の保健・医療制度について理解したり、地域の保健・医療機関の活用や医薬品の制度とその活用について理解できるようになる。 【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。
	様々な保健活動や社会的対策	【知】我が国では、健康を支えるために健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようになる。 【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。
	健康に関する環境づくりと社会参加	【知】自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることを理解できるようになる。 【思】健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができるようになる。
	使用教材 (教科書・副教材)	教科書：現代保健体育（大修館），副教材：現代保健体育ノート（大修館）
学習方法	教科書を中心に健康・安全に関わる基本的なことを体系的に学び、科学的根拠をもとに健康課題に対処できる思考・判断・表現力をグループ活動等を通じて身に着けていく。	
評価方法	定期考查、レポート、保健ノート、グループ活動における観察等	

教科	英語	科目（単位数）	英語コミュニケーションⅡ (文系4・理系3)	学年	2	類型	全クラス
学習目標	外国语の習得を通して生徒の人間的成长を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。 基礎・基本事項を大切にして、確かな読解力・表現力を身につける。						
評価基準	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に向かう態度	①定期考査の知識・技能：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割 ①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割 ①定期考査：4割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：3割					
期間	単元（学習内容）		学習の到達目標				
1学 期	CHAPTER 1: Words that Can Guide You in Life		【知】現在・過去・未来、使役の構文といった英文の構造を理解できる。 【思】インタビュー記事を読み、内容を理解することができる。 【学】学習した英文を活用し、自分の興味・関心、キャリア観を英語で話したり、書いたりして表現することができる。				
	CHAPTER 2: Stationery - Changing Our Lives for the Better		【知】時制、完了形の受動態について理解できる。 【思】身近な文具についての文章を理解し、内容に関して簡単な語句を使って書く事ができる。 【学】文具に関する基本的な話題に関して、学習した語句を使って説明しようとする。				
	CHAPTER 3: Salt: More than Just a Seasoning		【知】形式目的語構文、形容詞の構文について理解できる。 【思】食、歴史の力について書かれた内容について読み取り、理解できる。 【学】栄養や味付けについて、ペアで考えを深めようとする。				
	CHAPTER 4: The Story of Holly Butcher		【知】頻度を表す構文、複合関係詞について理解できる。 【思】筆者への手紙を英文で書き、その内容についてペアで話すことができる。 【学】学習した内容に関して、ペアやグループで話し合い、自らの意見を表現しようとする。				
2学 期	CHAPTER 5: Welcome to Costa Rica: An Invitation to Ecotourism		【学】否定構文、冠詞の用法について基礎的な知識・技能を身につけることができる。 【思】エコツーリズムについての英文を読み、多様性について考え、自らの考えを英語で表現することができる。 【学】エコツーリズムについてディスカッションを行おうとする。				
	CHAPTER 6: The World Is Not So Simple - A Lesson from the Worldwide Bestseller, <i>Factfulness</i>		【知】回想を表す表現、付帯状況について基礎的な知識・技能を身につけることができる。 【思】説明文（プレゼンテーション）を読み取り、要点をつかむことができる。 【学】データの力について、図や表を活用しながら理解しようとする。				
	CHAPTER 7: The Psychology of Everyday Experiences		【知】話し手の態度を表す構文、助動詞+完了形について理解できる。 心理学について、学んだ語句や構文を活用し、50語～60語程度のパラグラフライティングができる。 【思】社会心理学の論理について、基本的な語句や文を活用し情報や意見のやり取りを他者と行い、論理的に伝えることができる。 【学】心理学について自らの進路との関連を考えながら学ぼうとしている。				
	CHAPTER 8: An Ainu Girl Named Yukie		【知】比較構文、無生物主語構文について理解できる。 【思】意志の力について、パラグラフライティングができる。 ペア・グループで物語を英訳し、朗読することができる。 【学】リスニング教材を活用し、その内容に関して他者と意見を深めようとする。				
3学 期	CHAPTER 9: The Miracle of the Abu Simbel Temples		【知】名詞節の構文、動詞+名詞+過去分詞の構文について理解できる。 世界遺産についての説明文を読み、内容を理解することができる。 【思】世界遺産に関して、補助資料などを活用し、目的に応じてペアやグループで意見をまとめることができる。 【学】社会的な話題について、補助資料や他者の意見を介して書き手や話し手の意図を理解しようとする。				
	CHAPTER 10: Physics Goes a Long Way		【知】仮定の構文、倒置について理解できる。 物理学についての説明文を読み、内容の要点をつかむことができる。 【思】物理学について、資料などの支援を活用し、目的に応じてペアやグループで意見を発表することができる。 【学】社会的な話題に関して、補助資料や他者の意見を介して話の展開を理解しようとする。				
使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「New Rays English CommunicationⅡ」（いいいざな書店）、副教材：単語帳「DataBase4800」（桐原書店）、リスニング問題集「Hyper Listening」（桐原書店）、参考書「総合英語 be」（いいいざな書店）						
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。						
評価方法	(知) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・スピーキングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察（ノート・レポート）・ディスカッション、ディベート (学) 考査・授業での観察（ノート・レポート等）・リスニングテスト						

教科	英語	科目（単位数）	論理・表現Ⅱ (文系3・理系2)	学年	2	類型	全クラス
学習目標	外国語の習得を通して生徒の人的成長を手助けし、自他の言語や文化に対する関心を高める。 基礎・基本事項を大切にして、確かな読解力・表現力を身につける。						
評価基準	知識・技能	①定期考査の知識・技能：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割					
	思考・判断・表現	①定期考査の思考・判断・表現：6割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：1割					
	主体的に学習に向かう態度	①定期考査：4割 ②各課題・提出物：3割 ③パフォーマンステスト：3割					

期間	単元（学習内容）	学習の到達目標
1学期	Lesson 1 : Your Interests	【知】時制の意味や働きについて理解することができる。 【思】クラブ活動や自分の趣味について、時制の表現を適切に用いて、ペアで伝え合うことができる。 【学】クラブ活動や自分の趣味について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 2 : Your Daily Life	【知】名詞句や名詞節、動名詞や不定詞の意味や働きについて理解できる。 【思】流行していることや自分の興味があることについて、ペアで伝え合うことができる。 【学】週末の計画について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 3 : Your School Life	【知】助動詞の意味や働きを理解することができる。 【思】掃除当番の手順について、ペアと情報のやり取りを行うことができる。 【学】学校の施設の使い方についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 4 : Media Literacy	【知】形容詞や分詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】ソーシャルメディアをどう利用しているかについて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。 【学】ソーシャルメディアの注意点について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 5 : Helping Others	【知】形容詞句の意味や働きについて理解することができる。 【思】ボランティア活動についての情報を、筋道を立てて書くことができる。 【学】ボランティアの経験について、他者に分かりやすく話して伝えようとしている。
2学期	Lesson 6 : Introducing Your Town	【知】関係代名詞や関係副詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】町の魅力や観光スポットについて、ペアで情報のやり取りを行うことができる。 【学】自分の町の紹介文についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとしている。
	Lesson 7 : Languages of the World	【知】副詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】日本の方言について、他者と情報や意見のやり取りを行うことができる。 【学】消滅の危機にある言語についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 8 : Imagining the Future	【知】副詞句の意味や働きについて理解することができる。 【思】未来の社会についての情報を、グループ内で発表することができる。 【学】未来の社会についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 9 : Happiness and Stress	【知】副詞節の意味や働きについて理解することができる。 【思】幸せを感じるときについて、ペアで情報をやり取りすることができる。 【学】ストレス解消について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 10 : Comparing Countries	【知】比較表現の意味や働きについて理解することができる。 【思】データから読み取れることについての情報を、ペアでやり取りすることができる。 【学】データから読み取れることについての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
3学期	Lesson 11 : Cultural Diversity	【知】仮定法の意味や働きについて理解することができる。 【思】「自分がもし日本のリーダーだったら」について、ペアで伝え合うことができる。 【学】世界の問題に対する解決策について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 12 : Japanese Customs	【知】認識の表現、要求や必要を表す表現、話法の意味や働きについて理解することができる。 【思】外国の友人にすすめる日本のものについて、ペアでやり取りすることができる。 【学】日本の習慣のへ変化についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 13: Population Issues	【知】存在や変化を表す表現の意味や働きについて理解することができる。 【思】少子化の原因と影響について、グループ内で発表することができる。 【学】少子化対策についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 14: Rights and Equality	【知】使役動詞や知覚動詞の意味や働きについて理解することができる。 【思】ジェンダーや人権問題について、ペアで伝え合うことができる。 【学】人権問題の解決策について、筋道を立てて書いて伝えようとする。
	Lesson 15: Think Globally, Act Locally	【知】無生物主語構文の意味や働きについて理解することができる。 【思】水の大切さについて、グループ内で発表することができる。 【学】SDGsの目標達成についての情報を、筋道を立てて書いて伝えようとする。

使用教材 (教科書・ 副教材)	教科書：「be English Logic and ExpressionⅡ Clear」（いいいぢな書店）、副教材：参考書「総合英語 be」（いいいぢな書店）、問題集「English Logic and ExpressionⅡ be clear Grammar Book」（いいいぢな書店）、英文法・語法問題集「Engage」（いいいぢな書店）
学習方法	予習・授業・復習のサイクルの徹底。週末課題の活用。
評価方法	(知) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・スピーチングテスト、ライティングテスト (思) 考査・授業時の観察（ノート・レポート等）・ディスカッション、ディベート、スピーチングテスト、プレゼンテーション (学) 考査・授業での観察（ノート・レポート等）・リスニングテスト

熊本県立人吉高等学校 「総合的な探究の時間」 2年次（案）

学年	2年										
テーマ	社会と自己			到達目標	学習内容（学習教材等）	活動場所	知能	思判表	主体		
4月	1	導入	オリエンテーション【探究コースでの内容説明】		探究コースで実践する内容について見通しを持って臨む姿勢が持てる。【分野担当者の発表】	ワークシート等・クロームブック	全体集会	○	○	○	
	2	探究	探究コース内のグループ探究の決定【以降グループ探究】		各探究コース内の概念の関連した分野を分け、共通したテーマをもとにグループをつくる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	3	探究	グループ探究内の研究テーマの設定		思考ツール等、様々な手法を用いて研究テーマを設定することができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
5月	4	探究	研究テーマに関する知識を整理する		思考ツール等を用いて、テーマに関する知識を広げることができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	5	探究	リサーチクエスチョンを導く		リサーチクエスチョンを用いて、7つの問い合わせができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
6月	6	探究	リサーチクエスチョンをもとに現状を把握する		先行研究や事例から現状を把握することができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	7	探究	リサーチクエスチョンをもとに仮説を立てる		リサーチクエスチョンをもとに複数の仮説を立てることができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	8	探究	仮説を検証する調査・実験方法を使う		仮説を検証する調査・実験方法について知る。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	9	探究	どの調査・実験方法を用いるかまとめる		グループの研究テーマに適した調査や実験方法を決定し、まとめることができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
7月	10	探究	研究計画表の作成様式や方法を使う		研究計画表の作成様式や方法について理解できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	11	探究	研究計画書を作成する		研究計画書を作成できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
8月			研究計画書をもとに研究を実施する			ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
9月	12	探究	研究計画書をもとに実施した内容を考察し結論を導く		研究計画書をもとに実施した内容を考察し結論を導く方法を理解できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	13	探究	考察・方法をもとに結論を導く		考察・方法をもとに結論を導くことができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	14	探究	これからの展望を考え、まとめる		結論を基にこれからの展望をまとめることができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	15	探究	研究論文の作成を行う		研究内容のまとめ方について理解できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
10月	16	探究	研究内容を様式に合わせてまとめる		研究内容を所定の様式に論文としてまとめることができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	17	探究	作成したドキュメントをもとにスライドを作成する		スライドの作成手順を理解できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	18	探究	ドキュメントをもとにスライドを作成する		スライドの作成手順をもとにスライドを作成できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	19	探究	ドキュメントをもとにスライドを作成する		スライドの作成手順をもとにスライドを作成できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
11月	20	探究	スライドをもとにクラス内で共有する		スライドをもとにグループ内で発表することができる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	21	発表	2年生による各探究コースの発表会		各探究コースの代表グループが報告する。		全体集会	○	○	○	
12月	22	探究	研究要綱の作成		グループの研究テーマに沿って研究要綱を作成できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
	23	探究	研究要項の作成・提出		グループの研究テーマに沿って研究要綱を作成できる。	ワークシート等・クロームブック	分野ごとの教室	○	○	○	
1月	23	探究	クラス間で自分の探究内容を共有する			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
	24	探究	クラス間で自分の探究内容を共有する			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
	25	探究	クラス間で自分の探究内容を共有する			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
2月	26	探究	研究要綱を3年次に生かす【志望理由書の作成】			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
	27	探究	研究要綱を3年次に生かす【志望理由書の作成】			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
3月	28	探究	研究要綱を3年次に生かす【志望理由書の作成】			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	
	29	探究	研究要綱を3年次に生かす【志望理由書の作成】			ワークシート等・クロームブック	クラス内	○	○	○	